

「記述」問題解答例

①

新聞に目を通せば、その日世界のどこで何が起きたのかを効率よく把握できる。このため、新聞を読めば世の中の動きがよくわかると考えられているのだろう。それに、新聞では出来事の重要性によって、記事の大きさが変わるので、読むべきニュースが一目でわかる。インターネットでは、大量の情報から自分で取捨選択しなければならないので、大変だ。

また、新聞なら、ふだんあまり興味がない話題でも記事が目に入れば本文も読むので、幅広い知識の蓄積に有効だ。インターネットでは見出しだけで判断するため、自分の関心領域や知識の幅は広がりにくい。

しかし、特定のニュースについて詳しく知りたい場合は、インターネットのほうが適している。最新情報が次々と配信されるし、関連記事へのリンクや映像や音声などによって、更に詳細な情報を得られるからだ。

私は、目的によって両者を使い分けるほうがいいと考える。つまり、特定のニュースについて調べる場合はインターネットを利用し、その日の主な出来事を知りたい場合は新聞を読むのがいいと思う。

②

面接試験では、その大学に入ることに對する受験者の熱意や人柄を知ることができる。さらに、入学後、よい学業生活を送るために大切な学問や校風への適性を判断できる。このようなことは、筆記試験では測れない。また、筆記試験で測っていた知識や学力は、面接で質問する内容を工夫することによって測れると思う。この場合、カンニングも防げる。したがって、学科試験をなくして、面接試験だけにすることで、受験生の資質や学力をより総合的に判断できるのではないか。

一方、短所としては、受験者と面接する先生との相性の問題がある。試験が面接のみの場合、たまたま相性の悪い先生と面接した受験者は不利になるかもしれない。また、受験者が多い場合は試験に時間がかかり、大学側の負担が大きくなる。

もし面接試験だけにするなら、複数の先生が面接する等、公平に合格者を決定できるしくみや、学科試験に充てていた時間・人員をうまく面接に使う等、大学の負担を減らす工夫が必要だ。そうすれば、受験者の能力を総合的に判断できる面接の長所は大きいので、とても良い案だと思う。